

第 2 回奈良中心市街地公共交通活性化協議会


【上位・関連計画の整理】

目 次

1 奈良県全体の計画	1
奈良県都市計画区域マスタープラン	1
21 世紀の観光戦略	3
奈良県みんなでつくる渋滞解消プラン	5
2 奈良市全体の計画	1
第4次奈良市総合計画	6
奈良市都市計画マスタープラン	8
奈良市観光交流推進計画	9
奈良市オムニバスタウン計画	10
奈良市交通安全計画	11
奈良市中心市街地活性化基本計画	12

平成 22 年 6 月 28 日

1 奈良県全体の計画

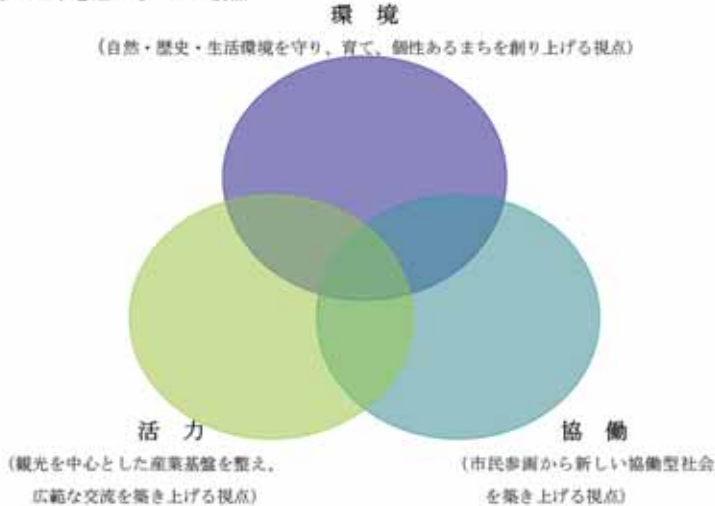
名称	奈良県都市計画区域マスタープラン(H16.3)
目標年次	平成 22 年
方針・目標	<p>豊かな自然環境や恵まれた歴史文化遺産等の保全と活用による「都市の魅力の創出」を図りながら、生活の快適性・利便性の改善のための「都市の居住環境の向上」と、社会経済情勢の変化に対応した「都市空間の再編」を行い、奈良独自の発想による、奈良県民のための、魅力ある奈良の創出を図る。</p>  <p style="text-align: center;">都市づくりの三つの基本方向</p>
生活交通・観光交通に関する事項	<p>主要な道路の配置の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年開催の平城遷都 1300 年記念事業に向けて、平城宮跡周辺における観光・交通ネットワークを構築する。 歴史文化遺産を巡る街道や自転車道等を整備し、徒歩や自転車で手軽に親しめるネットワークの形成を図る。 <p>主要な公共交通の配置の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅前広場の機能の充実や駅周辺でのバリアフリー化を推進する。 JR 奈良駅付近連続立体交差事業、京阪奈新線の整備を推進する。 ITS の活用や官民による複数モード間の乗り継ぎの PR 等を推進する。 観光需要に対応したコミュニティバス、観光周遊バス、パーク＆サイクルライド等、観光客のニーズに対応した新たな端末交通手段の導入を図る。 <p>交通システムの方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 的確に交通流動を把握し、通勤時間帯等の駅アクセス路線での車両制限による交通総量の抑制、バスレーンの設置等柔軟な運用を図る。 的確に交通状況を把握し、主要駅周辺の商業地域を中心に駐車場問題が深刻化している地域においては、必要に応じて駐車場の整備を図る。 観光地における渋滞対策として、必要に応じゾーンシステムなどの自動車利用抑制施策などを実施する。 <p>観光の振興に資する都市づくりの主要な施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光拠点間を快適に移動できる観光ネットワークを形成するため、「なら・半日交通圏道路構想」を着実に実現し、また道路と鉄道の交通結節点を整備し、観光客のアクセス手段の向上を図る。

名称	21世紀の観光戦略(H17.10)
目標年次	平成22年
方針・目標	<p>戦略目標：泊まる、「奈良」。じっくり楽しむ 戦略 宿泊観光の推進 外国人観光客の誘致 新しい魅力の創出</p> <p>○2010年目標値</p> <pre> graph TD A((経済波及効果 2003年比 25%増加)) B((宿泊者数 500万人[約1.5倍] 331万人 (2003年))) C((外国人観光客 100万人[約4倍] 26万人 (2003年))) B --> A C --> A B <--> C </pre>
主な取組例	<ol style="list-style-type: none"> 1) 宿泊施設の創出・再生 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内施設の現況と課題の把握。 ・ 多様な宿泊施設の創造（宿坊、町家民宿・農家民宿等）。 ・ 滞在を促進する魅力づくり 2) 世界への魅力の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地セミナー、国際観光展出展。 ・ 旅行商品の開発（国別、ターゲット別） ・ 外国人受け入れ施設（宿泊施設、飲食店等）の拡充。 3) 参加型観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産を活用したイベントの開催(平城遷都1300年、魅惑体験フェスタ、大和路歴史首都ルネッサンス)。 ・ 「健康」「学習」「癒し」をテーマにした新しいプログラムの創出(レベルにあったウォーキングルート、考古学、自然、環境)。 4) 広域観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪府等近府県との連携。 ・ 共通パス(観光施設、交通機関)の発行 5) 食・買い物の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元素材の開発とPR。 ・ 奈良みやげもの大賞の創設 ・ 拠点の整備(道の駅等)とにぎわいの空間づくり(商店街等) 6) 効果的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信拠点の拡大(代官山iスタジアム、鉄道駅、空港、コンビニ等)。 ・ 携帯電話によるリアルタイム情報の提供、散策ナビゲーションの構築 7) 「もてなしの心」推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光ガイドのネットワーク化(ボランティア・語り部)

	<ul style="list-style-type: none">・ 「（仮称）奈良検定」の実施 8) 良好な景観形成 <ul style="list-style-type: none">・ 景観法を活用した市町村の主体的な取組への支援 9) 地域おこしを支える人づくり <ul style="list-style-type: none">・ 地域づくりサポート(農業体験、自然体験、町家体験)・ 人材養成塾(新世紀まほろば塾、奈良2010年塾)
作成主体	奈良県

名称	奈良県みんなで作る渋滞解消プラン(H22.2)
方針・目標	客観的なデータに基づいて抽出した渋滞が著しい箇所の公表や、道路利用者へのアンケートの実施など計画の策定過程を「見える化」する。 併せて、幹線道路ネットワークの整備・改善が間近な区間では、その効果を調査の上対策を検討するが、それ以外の箇所は、コストや早期事業効果発現の観点をより重視した「速効対策・ソフト対策」に「選択と集中」で取り組む。
具体的な取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1) 客観的データを用いた渋滞箇所の「見える化」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急性の高い所への重点的な対策を実施 ・ 客観的データに基づき、「渋滞が著しい箇所(原案)」を抽出 2) 県民とのコミュニケーションによる計画策定の「見える化」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路利用者へのアンケートを実施し、県民の意見を反映 ・ 対策の検討過程については、カルテを作成し、「見える化」を実施 3) 「選択と集中」による対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「渋滞が著しい箇所」について重点的に渋滞対策を実施 ・ 幹線道路ネットワークの形成が間近なものはその供用後の交通状況を調査して対応を判断 ・ それ以外の箇所は、「速効対策」や「利用者に協力を求めるソフト対策」を重点的に実施 ・ 道路の使い方の工夫による対策を強化 ・ 平城遷都1300年祭において、モデル的にソフト対策を実施 ・ 交通事故対策と十分な連携を図りつつ対策を実施 4) 最先端技術の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ ETCの機能を応用した、よりきめ細やかな情報提供等によるピークシフト ・ 渋滞情報や公共交通の利便性向上を内容としたホームページ作成 5) 渋滞状況把握・対策検討のための体制強化及びノウハウの蓄積 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政以外の機関との連携 ・ 国内外の事例を収集し、これらを題材とした検討会を実施 6) フォローアップによるPDCAの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAサイクルを活用した取り組みにより、継続的な改善を実施
作成主体	奈良県土木部・奈良県警察本部

2 奈良市全体の計画

名称	第4次奈良市総合計画(策定中)
目標年度	平成32年度
方針・目標	<p>基本理念</p> <p>環境：自然・歴史・生活環境を守り、育て、個性あるまちを創り上げる視点 活力：観光を中心とした産業基盤を整え、広範な交流を築き上げる視点 協働：市民参画から新しい協働型社会を築き上げる視点</p> <p>■まちづくりを進める3つの視点</p>  <p>将来像：豊かな環境と交流、活力に満ちた暮らしのある世界の古都奈良</p> <p>基本方向</p> <p>時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち</p> <p>1300年の時を経て蓄積された歴史・文化・自然環境などを守り、育て、活かすとともに、後世に伝えていくことで、市民が奈良への愛着や誇りを深め、また国内外から注目を集められる魅力あるまちを創造する。</p> <p>観光をはじめとするビジネスモデルの創造による活気あふれるまち</p> <p>国際文化都市としての取組について、都市経営の観点に立って抜本的な改革を図り、交流人口の拡大と産業の活性化を目指して、いきいきと活動し交流できる活気あるまちづくりを進める。</p> <p>歴史と未来、都市と田園が共生する持続可能なまち</p> <p>「都市は先人の遺産であり、未来世代からの預かりものである」という認識をもち、過去から現在、そして未来へとつなげる持続可能なまちづくりを進める。</p> <p>いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち</p> <p>性別や年齢、障がいの有無、文化の違いなどを超えて、市民一人ひとりがお互いに尊重し合い、地域での支え合いや助け合いを通して、誰もが安全・安心を実感しながら、幸せにいきいきと暮らせるまちづくりを進める。</p> <p>世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち</p> <p>次代を担う子どもたちが良好な環境のもとで健やかに育ち、地域のつながりを深め、家族や友人、地域の人たちとのふれあいを通して、お互いに協力し、支え合うことができるまちづくりを進める。</p> <p>市民と行政が協同する健全な財政によるまち</p> <p>市民・企業・市民活動団体などと行政が、お互いに理解し信頼関係を深め、協働することにより、それぞれの力を十分に発揮できるまちづくりの環境を整える。また、将来に向け必要な投資が適切にできる健全な財政基盤を築き、自</p>

立した魅力あるまちづくりを進める。

観光・交流の指標

平成 20 年の奈良市観光統計での奈良市の観光入込客数 1435 万人、そのうち宿泊客数 228 万人に対し、国際的な観光地としての奈良の魅力あるまちづくりを進めるに当たり、国内外の人たちが奈良市を訪れることが活性化の重要事項であることから、平成 32 年には、観光入込客数 1500 万人、宿泊客数 300 万人を目標とする。

施策の大綱

縦軸を「基本構想」の「基本方向」、横軸を「基本計画」の「章」立てとし、それぞれが交わる箇所に、そこに対応する「基本施策」が入る。「基本方向」は複数の分野に横断的に関わる場合もあるため、「基本施策」が複数の「基本方向」に入る場合もある。

施策に関する事項

		基本方向					
		時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち	観光をはじめとするビジネスモデルの創造による活気あふれるまち	歴史と未来、都市と田園が共生する持続可能なまち	いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち	世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち	市民と行政が協働する健全な財政によるまち
大綱 基本計画における章立て	市民生活			交流(地域間交流)	人権 平和 男女共同参画	男女共同参画 交流(地域間交流) 地域コミュニティ	地域コミュニティ
	教育・歴史・文化	歴史・文化遺産(保護と継承) 文化財 文化振興	歴史・文化遺産(保護と継承) 文化財	歴史・文化遺産(保護と継承) 文化財	学校教育 青少年の健全育成	学校教育 生涯学習 青少年の健全育成 スポーツ振興 文化振興	歴史・文化遺産(保護と継承) 青少年の健全育成
	保健福祉			衛生	地域福祉 児童福祉 子育て 高齢者福祉 障がい者・児福祉 医療 保健 衛生	子育て	地域福祉 子育て 高齢者福祉
	生活環境	自然環境(保護と継承)	自然環境(保護と継承)	自然環境 生活・環境衛生 環境保全 廃棄物処理 防災・消防	地域の安全・安心 防災・消防 防犯 交通安全	地域の安全・安心 防災・消防 防犯 交通安全	地域の安全・安心 防災・消防 防犯
	都市基盤	土地利用 市街地整備 景観 公園・緑地	交通体系 景観 公園・緑地	土地利用 市街地整備 交通体系 道路 景観 住環境 公園・緑地 河川・水路 上水道 簡易水道 下水道	土地利用 交通体系 景観 住環境 公園・緑地 河川・水路		
	経済	観光	観光 交流(国際交流) 農林業 商工・サービス 勤労者対策(労働環境) 消費生活		勤労者対策(労働環境) 消費生活	交流(国際交流)	観光 交流(国際交流)
	基本構想の推進	市民参画・協働、市政情報の発信・共有、行財政運営、広域行政、情報化					

作成主体 奈良市

名称	奈良市都市計画マスタープラン(H14.12)
方針・目標	<p>まちづくりの基本理念 世界遺産をはじめとする歴史的文化遺産をまちづくりの核とし、人と自然と文化を大切にすまちづくり</p> <p>都市の将来像 世界遺産に学び、ともに歩むまち - なら</p> <p>都市計画のトータルコンセプト 新平城京の創造 - 保存と開発の調和を基本に、全市にわたって、国際文化観光都市・奈良にふさわしいまちづくりを展開する -</p> <p>3つのサブコンセプト 歴史都市らしい水と緑の都市空間をつくる園林都市 新しい都市活動・産業基盤をつくる歴史文化創造都市 豊かな住と余暇空間をつくる生活うるおい都市</p>
交通に関する事項	<p>都市軸</p> <ul style="list-style-type: none"> 平城京の古代条坊を生かした都市の再構築 朱雀大路を本市の大シンボル軸と位置づけた次代にわたる長期的視点からの南北文化緑地帯形成 中心市街地南側区域の活性化 - 東西都市軸（六条都市軸）の新たな設定による、南の玄関口（ゲートウェイ）としての新しい都市機能集積及び都心地区への交通体系の改善  <p>交通の骨組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要都市間の日帰り交流や関西国際空港への利便性に配慮した、広域交通基盤の形成 市内の混雑緩和・通過交通軽減にむけた、道路体系及び公共交通網の整備充実などによる総合的交通体系の整備 マイカー観光の弊害改善と環境保全を目的とする、観光交通に対応したパークアンドバスライドシステムや駐車場案内システムなどの整備充実 中心市街地などにおける歩行者優先道路や駐車場整備
作成主体	奈良市

名称	奈良市観光交流推進計画(H22.2)
計画期間	平成 21 年度から 10 年間
方針・目標	<p>しみじみと本物の良さを味わう奈良 奈良を訪れてこそ感じられる魅力・よさを守り、育てていくことで、これまでのリピーターを大切にしつつ、「奈良にしかない」魅力の発信を通じて新たな誘客を図る。</p> <p>魅力的であたたかな人々に出会う奈良 観光事業者だけでなく、市民を含めた奈良の人々全体が、奈良の魅力への深い理解のもと、あたたかいおもてなしの心で観光客を迎える体制をつくる。</p> <p>次々と世界中の人が集まる奈良 魅力的な観光資源とおもてなしの心を持った人々に迎えられ、世界中から多くの人々が集い、訪れた人と迎える人、また訪れた人どうしの交流が進むように、必要な基盤を整備する。</p>
生活交通・観光交通に関する事項	<p>情報発信・提供体制の充実 「売り」とする情報を地域で共有し、新たな資源（施設・商品・イベント）が送客を促す媒体（旅行会社・鉄道会社・マスコミ等）に速やかに伝わる体制をつくり、「神社仏閣めぐり」といった固定的なイメージにとらわれない奈良の多様な魅力を伝えていく。</p> <p>例 1) 観光案内所の充実 旅館・ホテルと案内所間の連携を進め、観光客の属性に即して、宿泊形態・食事等それぞれのニーズに合った情報が伝わる仕組みをつくる。</p> <p>例 2) 情報発信媒体の多様化 京阪神など近隣都市の拠点における奈良観光の情報提供を強化する。</p> <p>スムーズな観光を助ける環境の整備 観光客がスムーズに移動できるよう、交通機能の向上について、バスの案内、通りの名称、交通規制、自転車利用の利便性向上等、対策を講じていく。</p> <p>例 1) 時間感覚に即した具体的な交通案内 首都圏・中京圏や京阪神からのアクセスを、鉄道の時刻表や自動車・徒歩の標準所要時間を当てはめながら、具体的な観光の行程に即して案内し、「遠い」というイメージを払拭するとともに、旅行計画がたてやすいものとする。</p> <p>例 2) 奈良市の顔になる場における案内機能の充実 近鉄奈良駅、JR 奈良駅等、観光の出発点となる場において、案内標識の充実、観光地情報、観光地までの移動手段の情報の充実等を図る。</p> <p>例 3) レンタサイクル等自転車の利用促進 自転車が有効に利用できるような利用方法・運営方法・ルールづくり等を進める。</p>
作成主体	奈良市

名称	奈良市オムニバスタウン計画(H11.3)
実施期間	平成12年度～平成16年度
方針・目標	<p>国際文化観光都市として、大阪・京都に隣接する住宅都市として、奈良市における総合的な公共交通システムを構築するために、バスの有する多様な社会的意義を最大限に発揮して、安全で快適な交通環境の実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての人が安全で快適に利用しやすいバスが走るまち ・ 交通渋滞のない安全で移動しやすいまち ・ 人が歩き集える活気のあるまち ・ マイカーに過度に依存しないきれいな空気に満ちたまち
施策に関する事項	<p>バス走行環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共車両優先システム（PTPS）の導入 ・ バス専用レーンの導入検討 <p>バスの利便性・安全性等の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノンステップバスの導入（12両を導入） ・ バスロケーションシステムの整備拡大 ・ やすらぎバスステーションの設置（20箇所を設置） ・ アイドリングストップ機能付きのバス導入（75台） ・ 「企業定期券」導入の働きかけ ・ 環境定期券等の導入検討 ・ 100円バスの試験導入（ならまちバス） ・ 敬老定期券（奈良交通ゴールドクラブ）の導入 <p>バス交通の円滑化のための交通施設の整備・改善を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光用パーク＆バスライドシステムの実施 ・ 通勤時パーク＆バスライドシステムの導入検討 ・ 駐車場案内システムの整備 ・ 街路整備とトランジットモールの導入検討 ・ サイクル＆バスライドシステムの導入検討 <p>バスの社会的意義の認識高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バス利用促進シンポジウムの開催 ・ バス利用促進キャンペーンの実施 ・ ノーマイカーデーの促進 ・ バス通勤、通学の奨励
作成主体	奈良市



名称	奈良市交通安全計画(H18.3)
計画期間	平成 18 年度～平成 22 年度
方針・目標	<p>交通者社会を構成する人間 全ての市民一人ひとりが交通社会の一員としての責任を自覚し、自ら進んで交通安全に取り組もうとする意識を高める交通安全教育及び啓蒙活動を推進する。</p> <p>交通機関 安全な運転運行を確保するための諸施策を推進する。</p> <p>交通環境 道路網の整備、交通安全施設の整備、効果的な交通規制、交通に関する情報の提供等を図り、安全な通行の確保を積極的に推進する。</p>
施策に関する事項	<p>道路交通環境の整備</p> <p>1) 道路の新設・改良による交通安全対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通円滑化を図るための交通混雑箇所の解消。 歩行者及び自転車利用者の安全を図るための、歩道設置、防護策の整備と道路拡幅の整備、右折レーンの付加や高齢者等の社会参加を支援する歩行区間の面的整備の推進。 <p>2) 交通安全施設等整備事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の地区において、公共交通機関のバリアフリー化と連携した歩行空間の整備、ユニバーサルデザインの考え方に基づく整備。 道路照明、道路標識、路面標示、啓発看板等、交通安全施設の整備。 信号機の設置及び系統化・感応化等の改善を関係機関へ積極的に働きかける。 <p>3) 交通需要マネジメント(TDM)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共車両優先システム(PTPS)によりバスの定時性を確保し、鉄道・バスの公共交通機関への利用転換による円滑な道路交通を図る。 行楽シーズンにおける奈良公園周辺の駐車場不足の解消と交通渋滞を緩和する観光用パークアンドライドの実施、また郊外型商業施設駐車場を利用した通勤時パークアンドライドの導入検討。 高齢者等のバス乗降に際してのやさしさ度アップを図るとともに、乗降時のスピードアップによる運行時間の短縮を図るノンステップバスの導入。 マイカー通勤削減や相乗り通勤の呼び掛け、毎月 20 日の「ならマイカーひとやすみデー」の推進。 <p>4) 違法駐車・迷惑駐車追放の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 違法駐車等防止重点地域(JR 奈良駅、近鉄奈良駅・学園前駅周辺)における違法駐車防止パトロール活動や啓発活動を展開。 <p>5) 自転車等駐車対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車等放置禁止区域での、自転車駐車場への誘導、指導並びに放置自転車の移動、また広報啓発活動の推進。 <p>6) その他の道路交通環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場案内システムや県の新交通管理システム(UTMS)並びに道路交通除法通信システム(VICS)により交通渋滞の緩和を図る。 歩行空間確保のための電線類の地中化推進や、円滑な交通の確保のための工事等での道路使用・占用の抑制。
作成主体	奈良市

<p>名称</p>	<p>奈良市中心市街地活性化基本計画(H20.3)</p>
<p>計画期間</p>	<p>平成 20 年 3 月～平成 25 年 3 月</p>
<p>方針・目標</p>	<p>基本テーマ：歴史とロマンに抱かれたまほろばの都 奈良 基本方針 1：歴史や文化のかがりが漂うまち 基本方針 2：歩いて楽しく過ごせるにぎわいあふれるまち 目標 1) 訪れたいまち 貴重な歴史・文化を再認識し、新たな魅力付けを行う。また観光施設の整備、イベント実施、情報提供ネットワーク整備により、訪れたいまちを目指す。 2) 歩きたいまち 玄関口としてふさわしい JR・近鉄奈良駅の整備や公共交通の利用促進を図る。また、安全で快適な歩行空間の整備、中心市街地を楽しめる環境整備等を行い、まちなかの回遊性向上を図り、歩きたいまちを目指す。 3) 活力のあるまち 商業者が主体となって、来街者が魅力を感じるような店舗づくりを行う。また、商店街どうし、あるいは観光施設やイベントなどとの連携強化により、中心市街地全体が活力のあるまちを目指す。</p>
<p>流れ</p>	<p>奈良市中心市街地活性化の流れ</p> <p>奈良市中心市街地活性化の方針 (基本テーマ) 歴史とロマンに抱かれたまほろばの都 奈良 (基本方針) 歴史や文化のかがりが漂うまち 歩いて楽しく過ごせるにぎわいあふれるまち</p> <p>活性化の目標</p> <p>■訪れたいまち ○歴史・文化資源を活かした新たな魅力付け ○観光施設の整備、各種イベントの実施と情報発信 <目標達成のための主な事業> ・ならまち舞台跡地(「明新」製菓事業) ・ホテル建設 ・JR奈良駅周辺商業施設・施設整備 ・観光案内所の充実 ・奈良市中心部駅前地区建築物保存事業(ならまちの整備) ・なら歴史館、ハセガサ祭り、スタンプラリー等のイベントの開催</p> <p>■歩きたいまち ○奈良広域観光の玄関口としてふさわしい駅前整備 ○公共交通の利用促進 ○歩いて楽しめる環境整備 <目標達成のための主な事業> ・JR奈良駅周辺近隣結立体交差化 ・三業通りの整備 ・近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画 ・(仮称)JR奈良駅東口駅前広場整備 ・JR高宮下空間を利用した駐車場、駐輪場整備</p> <p>■活力のあるまち ○魅力を感じる店舗づくり ○商店街、観光施設、各種イベントとの連携強化 <目標達成のための主な事業> ・商業インキュベーター活用 ・近鉄奈良駅前商業施設整備 ・テナントミックス ・一店活用づくり ・農産物直売所 ・奈良マーチャントセンター活用 ・人材育成 ・奈良女子大学、奈良県立大学との連携</p> <p>行政、商業者、市民の役割分担</p> <p>行政の役割 ・行政機関の体制強化</p> <p>商業者の役割 ・商店街の存在 ・新たな連携体 制の確立 ・お互いの連携強化</p> <p>市民の役割 ・自主的な活動 によるまちづ くりへの参画</p>
<p>生活交通・観光交通に関する事項</p>	<p>市街地の整備改善 ・ JR 奈良駅周辺の高架下空間の有効利用の検討 ・ JR 奈良駅東口駅前広場のペDESTリアンデッキ整備による、スムーズな移</p>

	<p>動環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近鉄奈良駅周辺のバスターミナル整備などの機能的な駅前広場の整備 ・ 三条通りのシンボルロードとしての歩行者優先整備、また安全・快適に歩くことのできる空間としての整備 ・ 駐車場および駐輪場整備 <p>公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場を JR 高架下に整備し、中心市街地への自動車流入を抑制する方法の検討、JR 高架下及び三条通りの駐輪場整備、駐輪指導員の配置などの駐輪対策 ・ JR 奈良駅を拠点とする、車に代わるバスやエコ交通機関を利用した新しい交通システムの構築 ・ 公共交通の整備等と、駐車場・駐輪場の整備の連携などによる、中心市街地の総合的な都市交通体系の確立の観点から施設の戦略的な整備の検討
作成主体	奈良市